



「ウィングエース トレーラ ecoモデル」

日本フルハーフは、昨年6月にモデルチェンジを行ったフルハーフウィングエース トレーラに環境に配慮したモデル「ecoモデル」を追加設定、発売し、ご好評を得ております。このモデルは従来車比較マイナス100kgの軽量化を図り、燃料費高騰、CO₂削減対策に対応しました。

また、従来10トントラックを用いていた運行に使用する場合を考慮、20トントラックストレーラながら、アオリ高さを1000mmから800mmにするなど、より扱いやすい仕様としています。

「ウィングエーストレーラ」環境配慮モデル ecoモデル1発売中



「ウィングエース フロースン」

日本フルハーフは、トラック用大型冷凍ウィングボディを9年ぶりにフルモデルチェンジし、フルハーフウィングエース フロースンとして発売を開始しました。断熱厚違いでマイナス20℃仕様とマイナス10℃仕様を設定しています。

最大の特長は、断熱性の飛躍的な向上により走行時でもマイナス20℃前後の保持が可能なこと、輸送品質向上となるばかりでなく、冷凍機のランニングコストを低減させ、CO₂の排出量も低減します。

また、軽量化と内容積拡大により積載量を拡大し、輸送効率を向上させました。

大型冷凍ウィングがフルモデルチェンジ 「ウィングエース フロースン」新発売



特殊2重保温シールによりボディの気密性を向上。 開口部には樹脂材を採用。断熱性が格段に向上しています。

上させました。重量は木材レス化などにより約450kg軽量化。内容積は内法幅20mm、内法高25mm拡大となっています(いずれも従来型比マイナス10℃仕様)。そのほか、抗菌パネルの採用、ノンフロン断熱材や六価クロムフリーパネルを使用するなど、衛生環境に配慮。ウィング開閉スロースタート&ストップ機構の標準装備で、開放時の負圧による雨滴の巻き込みを緩和するなど、積降ろしにも配慮しています。

ボディサイドはリベットのレス化の採用などで見栄えを向上。看板としての機能も高めました。

日本フルハーフが発足し、国産初のアルミバンを世に送り出した1963年、アメリカの冷凍機メーカーもまた日本進出を果たした。当時最新の冷凍機が、同年並んで上陸したのである。

アルミは軽量かつモノコック構造に向いており、高い遮熱性もあるため冷凍車に最適だった。見た目の美しさや衛生面のメリットも大きい。ごく初期の冷凍車にはスチール製ボディもみられたが、やがて淘汰された。

日本フルハーフのアルミ製冷凍車は早くから断熱性や品質の高さに実績を示し、「積荷の品質が保たれ、冷凍機の負荷を抑えて耐用年数を長く保てる」という、今日にも続く評価を得た。



フルハーフヒーローズ 冷凍車 (1965年)

FRUEHAUF Fan

2009 Winter Vol.8 [フルハーフ・ファン]

特集：株式会社共同運輸



F&E式 冷凍車

株式会社共同運輸 代表取締役 山下 敏文氏

日本フルハーフグループの全国ネットワーク

フルハーフはISO9001/14001の認証を取得し、環境にやさしく、高品質の製品と高信頼のサービスをお届けしています。

営業品目:アルミバン、保冷・冷凍車、ウィングトレーラー、各種コンテナ、各種部品、修理

本 社：〒243-0281 神奈川県東海市上依知ノ原3034 Tel.046(285)3111(代)

東京事務所：〒140-0001 東京都品川区北品川1-20-9(タウンチヨ品川ビル) Tel.03(3474)5720(代)

生産拠点：西小牧/厚木/滋賀/岡山/佐賀

販売拠点：北海道 011(723)8750 / 盛岡 019(672)5472 / 仙台 022(783)8831 / 新潟 025(243)0520 / 石川 0299(24)1275 / 北関東 048(661)9051 / 千葉 043(287)9711 / 東京 03(3863)8011 / 多摩 042(655)5655 / 神奈川 045(662)2710 / 静岡 054(285)3397 / 北陸 076(232)5588 / 名古屋 052(532)7051 / 大阪 06(6390)8257 / 神戸 078(856)9230 / 岡山 0869(84)4300 / 広島 082(282)2005 / 四国 087(863)6078 / 九州 092(282)9600 / 南九州 099(284)1634



業界 NEWS 08年度2次補正予算、09年度税制改正大綱に盛り込まれたトラック輸送事業支援策

景気低迷が続くなか、補助金制度など公的なトラック運送業者支援策がみられます。

「中小トラック事業者構造改善支援事業」は08年度第1次補正予算の国費52億5千万円に続き第2次補正予算では150億円が追加投入される予定。関連法案の今後の国会での動きに注目されます。また、09年度予算案にも08年度に引き続いての低公害車普及促進対策として、前年度並みの12億2千万円が組み込まれています。

さらに09年度税制改正大綱は新車の低公害トラック購入に対し、自動車重量税と自動車取得税の減免措置を3年間適用としてしています。大綱には法人税についても中小企業の救済措置が盛り込まれました。年間800万円以下の法人所得について、法人税の軽減税率を現行22%から18%に引き下げるといいます。また、前年度赤字だった中小企業が赤字に転じた場合、前年度に増付した法人税の還付が受けられる見込みです。

高速道路においては高速道路会社6社が高速道路の有効活用・機能強化に関する計画(案)として、2次補正予算に盛り込んだ5千億円を財源に、地方部高速道路で平日3割引を導入するなど景気対策として通行料金引き下げ案を提示しています。



株式会社共同運輸
代表取締役
山下 敏文氏

日本フルハーフにおまかせ!

Request リクエスト

レスポンス Response



日本フルハーフ株式会社
九州支店 支店長 最所 崇巳 九州支店 副支店長



フルハーフ九州株式会社
取締役社長 藤間 伸一
フルハーフ九州株式会社
サービス課長 志橋 忠孝

新センター開設に伴い冷凍車を10台導入

当社は物流センターの運営を事業の中心に据えて、実運送も手がけています。センター運営5割、運送5割くらいのバランスですね。かつては運送がメインでしたが、景気に左右されない強固な経営基盤の構築を目指し、このような事業形態になりました。

熊本県内で3センターを運営しており、事業エリアは県内とその周辺です。トラックの運行は、スーパー等の小売店舗への配送がメインです。3月に新たに開設する松橋センターは、お客様のひとつである大手スーパーのお仕事を、1カ所に集約するためのものです。開設に合わせて冷凍車を大型車6台、中型車4台の計10台導入しました。自社の車両のみで運行する体制が整い、運行管理や安全管理、乗務員教育の充実を図れます。それが輸送品質のさらなる向上となるでしょう。



1月に納車式が執り行われました。

効率の良いF&Eシステムを実践

主な積荷は食料品で、輸送には「F&Eシステム」というシステムを採用しています。これは、断熱シートを全体に装着したカゴ車（簡易コールドロールボックス）を活用したものです。積荷はセンターで予冷し、カゴ車に入れて冷凍車に積みこみます。カゴ車は断熱性が高く1本ごとに温度帯を設定できるため、冷凍車1台で冷凍・チルド・常温の多温度帯の一括配送が可能です。蓄冷剤を併用すればカゴ車1本の中に多温度帯の積荷を積み合わせることもでき、効率的な物流を実践しています。

今回導入した10台もカゴ車の使用を前提としたF&E仕様です。基本は従来から踏襲した仕様ですが、今回は特に床の磨耗対策をはかってもらいました。

「物流改革企業として社会に貢献し 社員の自己実現をめざす」が経営理念

昨今、物流の効率化は単に経営だけの話ではなく、広く環境対策として社会的に注目されています。当社はそれも視野に入れており、新センターの開設も、そのCO₂削減効果が認められて国土交通省の「グリーン物流パートナーシップ推進事業」の認定を受けました。車両の軽量化や直結式冷凍機の採用も環境対策の一環と捉えており、車両にも掲げたお通りの「物流改革企業として社会に貢献する」存在でありたいと思っています。

会社概要

会社名:株式会社共同運輸
本社:熊本県合志市栄3766-24
設立:1971年10月
代表者:代表取締役 山下敏文
従業員数:240名
車両台数:66台



写真の松橋センター(熊本県宇城市松橋町)は3月稼動予定。

1 当社の輸送形態「F&Eシステム」に対応した仕様をそろえたい。

2 カゴ車の使用による床の磨耗を防ぎたい。

3 輸送効率向上と環境負荷軽減をはかりたい。

カゴ車をフル活用する配送形態なので、荷室の壁面に保護板を貼るなどの共同運輸様仕様となっています。

フルハーフ独自の「イーフロアHD」をご提案しました。

大型車も軽量型のサンドイッチパネルを採用、積載量13,800kgを確保しました。

カゴ車単位で冷凍・冷蔵・常温に対応、多温度帯を一括配送する「F&Eシステム」※

簡易コールドロールボックス F&Eシステムで用いるカゴ車(簡易コールドロールボックス)は断熱性が高いので、温度帯をカゴ車ごとに設定できます。つまり、冷凍食品を入れたカゴ車、チルド品のカゴ車、常温品のカゴ車を1台の冷凍車に積み合わせて、一括で納品することが可能という、効率的な輸送システムです。



壁面保護板等の独自仕様

カゴ車が接触する荷室壁面にはラッシングレールと並行する形で保護板を装備。その他バックカメラ・フロテクター(丸棒)、ゲート作動時に点灯する回転灯など、細部にも共同運輸独自の要望が反映されています。



長距離運行が無いためキャブはベッドレス、その分荷室の床面積を広く取っています。

イーフロアHD

「イーフロアHD」の床はカゴ車使用による磨耗が少なく、また磨耗した場合にはユニット単位で取り外し・交換ができるのでローコストで長く使い続けられます。



サンドイッチパネル

中・小型冷凍車で実績のあるサンドイッチパネル構造を大型車にも採用し、積載量13,800kgを確保。軽量化と併せて冷凍機は直結式とし、環境負荷の低減をはかりました。



大型サンドイッチパネルバン生産体制が整う

今回納めた車両のなかでも、特に大型サンドイッチパネルバン6台は、フルハーフ九州にとって新たな一歩でした。大型サンドイッチパネルバンは従来、厚木の工場で箱の状態に組み上げ、それ運び込んでいたのですが、この佐賀の工場でも部材から製作する体制が整ったのです。従来は厚木から当地まで1便で1台分しか運ばせていたのですが、部材ならば2台分運んで効率的です。また、ひととおりボディが完成した後で、検収によって手直しが求められる場合もありますが、その対応も迅速に可能です。

今後も、こうした生産体制の充実を背景にして、ひとりひとりが細部にまで気を配り、高品質の製品をお客様に届けたいと考えております。



フルハーフ九州はISO9001:2000を認証取得しています。

生産部門と営業部門で情報交換と意識共有をはかる

また、今回イーフロアをご提案するにあたっては、イーフロアの実物の一部を持参してご検討いただきました。わかりやすい情報の提供は、お客様の新たなご要望を引き出すことにもなりますから、その声に傾聴するよう心がけています。

お客様の声に応えるには、グループ内の意思疎通も重要だと考えております。フルハーフ九州と日本フルハーフ九州支店は、月1度の生販会議で生産部門と営業部門との情報交換、意識共有をはかっています。営業がお客様に指摘されたこと、工場がサービスを通じて発見した製品の不良具合を会議の場で共有し、すぐに改善できることはその場で対策を決め、即断できないなら宿題とする。こうした取り組みを製品品質の向上、サービスの向上につなげています。

何がきても断らないサービス。出張対応も迅速に



トレーラの修理依頼に対応するためトラックを所有。

当社のサービスは「なんでもやります」の精神で、どんなお話しもお受けします。

軽作業や事故車修理はもちろんのこと、他社ボディの乗せ替えにも対応しています。これは単純な乗せ替えで済むものではなく、部材の一部を作る必要もあるの

ですが、こうしたご要望にこそ応えるべきでしょう。出張修理も、北は山口から南は鹿児島まで迅速に対応しています。今年は正月休みを返上して出張修理に伺ったケースがあったのですが、「おかげで仕事始めに間に合ったよ」とお客様に大変喜ばれました。今後もお客様が満足され、信頼されるフルハーフでありたいと思います。



フルハーフ九州株式会社 (佐賀県神埼市神埼町尾崎2962-1)

※F&Eシステムは、全国規模の運送会社ネットワーク組織「日本コールドネット協議会(JCN)」(会員事業者35社)が開発・運用しています。(株)共同運輸もJCNの一員として共同配送なども手がけています。